

平成30年（2018年）12月7日（金曜日）

三島市長選 ■課題を探る(上)■

駅南口の再開発事業

観光交流のハブ機能注目



事業協力者が決定した三島駅南口東街区再開発事業の計画地

「伊豆の玄関口」といえる東京五輪・パラリンピックを巡るJR三島駅は、来年のデと大型イベントが続くことを見据え、2年後の完成を目標として注目を集める。その

三島駅の南口再開発事業を巡って、今、市内が揺れている。

再開発事業は1997年、国鉄精算事業団から市に譲渡された。市は2012年に開始した。市は2012年に開始した。市は2012年に開始した。

を対象に大手企業6社による事業協力者と8月に協定を結んだ。今後、都市計画案を作成する東街区に市民の注目が集まっている。

再開発事業は1997年、国鉄精算事業団から市に譲渡された。市は2012年に開始した。市は2012年に開始した。

「提案力見る」公募案 計画変更の可能性も

年、駅周辺グランドデザインを作成し、東街区を広域健康医療拠点、西街区を広域観光交流拠点と位置づけ、再開発を模索してきた。現在、西街区のうち、約0・34は20年6月オープンを目指す。具体的な機能、高さなどを目標に低層層に商業施設を含むホテル（約200室、高さ57・5層）を建設中。東街区約1分は民有地だ。負担額についても「240・3分を加えた1・3分億円は公社からの土地買い

年、駅周辺グランドデザインを作成し、東街区を広域健康医療拠点、西街区を広域観光交流拠点と位置づけ、再開発を模索してきた。

現在、西街区のうち、約0・34は20年6月オープンを目指す。具体的な機能、高さなどを目標に低層層に商業施設を含むホテル（約200室、高さ57・5層）を建設中。

東街区約1分は民有地だ。負担額についても「240・3分を加えた1・3分億円は公社からの土地買い

年、駅周辺グランドデザインを作成し、東街区を広域健康医療拠点、西街区を広域観光交流拠点と位置づけ、再開発を模索してきた。

現在、西街区のうち、約0・34は20年6月オープンを目指す。具体的な機能、高さなどを目標に低層層に商業施設を含むホテル（約200室、高さ57・5層）を建設中。

東街区約1分は民有地だ。負担額についても「240・3分を加えた1・3分億円は公社からの土地買い